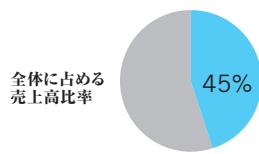


## セグメント情報

### 事業の種類別業績

#### 機械加工品事業



機械加工品事業の売上高は115,872百万円となり、前会計年度に比べ28,162百万円(△19.6%)の減収となりました。営業利益は、17,469百万円と前会計年度に比べ10,281百万円(△37.1%)の減益となり、売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は15.1%と前期より4.2ポイント低下しました。継続的な原価低減につとめたものの、為替の悪影響や原材料費高騰の影響に加え、世界同時不況による販売減少により、減収減益となりました。

#### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率 <sup>(注)</sup>
<b>ペアリング及びペアリング関連製品</b>		
ミニチュア・小径	各種小型モーター、家電、	60%
ボールペアリング	情報通信機器、自動車、産業機械	
ロッドエンド&スフェリカルペアリング	航空機	50%
ピボットアッセンブリー	HDD	60%
<b>その他機械加工品</b>		
特殊機器、ネジ	航空機、自動車、産業機械	—

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルペアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

#### 事業詳細

主力製品であるボールペアリング及びロッドエンドは、期の前半は比較的堅調に推移しましたが、期の後半には、月を追う毎に景気後退に伴う市場環境の悪化が進み、円高の影響もあり売上が減少しました。ピボットアッセンブリーは、主要な販売先であるHDD業界において期の後半に在庫調整が急速に進んだこと及び円高の影響で売上が減少しました。

ミニチュア・小径ボールペアリング事業では、歩留まり向上と合理化による原価低減を継続して行っております。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化を図りながら、基礎技術開発部門の強化も図っております。さらに固定費削減施策として、2009年4月に英国NMB-Minebea UK Ltdのスキゲネス工場を閉鎖いたしました。

ロッドエンド&スフェリカルペアリング事業では、将来の航空機需要に対応するため、軽井沢拠点にて新工場を建設いたしました。また、従来から展開しているロッドエンド&スフェリカルペアリングに加え、エンジン周辺部でのボールペアリング部品やより高度な加工技術を駆使した大型メカパーツ分野への進出を図っております。

ピボットアッセンブリー事業では、歩留まり向上など継続的な原価低減を図っております。  
また、タイにおいて、2009年3月に早期退職制度を実施し、人員の削減を行いました。

#### 主要製品

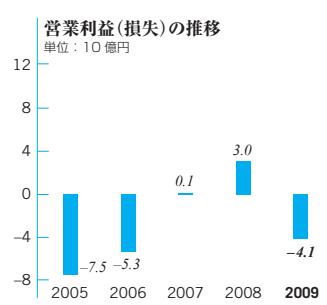
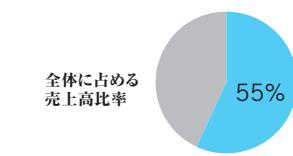
##### ●ペアリング及びペアリング関連製品

- ミニチュア・ボールペアリング
- 小径ボールペアリング
- シャフト一体型ボールペアリング
- ロッドエンドペアリング
- スフェリカルペアリング
- ローラーペアリング
- ブッシング
- ピボットアッセンブリー
- テープガイド

##### ●その他機械加工品

- 航空機用・自動車用ネジ類
- 特殊機器
- 電磁クラッチ／電磁ブレーキ

## 電子機器事業



### 主要製品

#### ●回転機器

- ハードディスクドライブ(HDD)用  
スピンドルモーター
- ファンモーター
- ハイブリッド型ステッピングモーター
- PMステッピングモーター
- ブラシ付DCモーター
- 振動モーター
- VRレゾルバ

#### ●その他電子機器

- パソコン(PC)用キーボード
- スピーカー
- エレクトロデバイス製品
  - カラーHオール、  
液晶用ライティングデバイス、  
バックライトインバーター
- 計測機器
  - ひずみゲージ、ロードセル

電子機器事業の売上高は140,291百万円となり、前会計年度に比べ50,106百万円( $\triangle 26.3\%$ )の減収となりました。営業利益は4,063百万円の損失と、前会計年度に比べ7,075百万円の悪化となりました。売上高営業利益率(売上高は外部顧客に対する売上高)は $\triangle 2.9\%$ と前会計年度より4.5ポイント低下しました。計測機器での新市場開拓による販売増加があったものの、為替の悪影響、世界同時不況による販売減少により、減収減益となりました。

### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の 世界市場占有率 <sup>(注)</sup>
<b>回転機器</b>		
HDD用スピンドルモーター	HDD	8%
情報モーター (ファンモーター、ステッピングモーター、 ブラシ付DCモーター、振動モーター)	PC・サーバー、情報通信機器、 家電、携帯電話、自動車、 産業機械	製品により 2～17%
<b>その他電子機器</b>		
PC用キーボード	PC	3%
液晶用LEDパックライト	携帯電話、デジタルカメラ、 デジタル携帯端末	9%
スピーカー	オーディオ機器、PC、自動車	—
<b>計測機器</b>	産業機械、自動車、ゲーム機	—

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しております。

### 事業詳細

計測機器はゲーム機市場向けが好調に推移したことにより売上が増加するとともに増産効果により増益となりました。一方、情報モーター、HDD用スピンドルモーター、液晶用パックライト等のエレクトロデバイス、キーボードその他の電子機器等は、期の前半での原材料価格の高騰と期の後半においての市場環境の急激な悪化や、顧客の急速な在庫調整及び円高の影響により売上が減少しました。また、FDDヘッド及びMODも事業終息により売上が無くなりました。

HDD用スピンドルモーター事業では、市場の成長性が高く単価の高い2.5インチHDD向けスピンドルモーターの生産・販売の拡大、歩留まり向上、開発力の向上に注力しております。

情報モーター事業では、新製品の投入等を図っております。

キーボード事業では、高付加価値商品の開発、コスト削減や効率化を推進しております。

エレクトロデバイス製品事業では、液晶用LEDパックライトの車載向けなどの中型液晶用LEDパックライト製品の拡大、さらにノートPC向け製品の開発を行っております。

スピーカー事業では、売上の拡大、製造の改善に努めております。

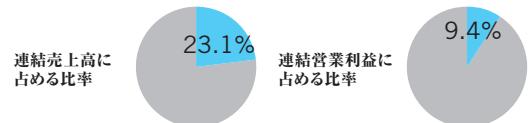
計測機器事業では、新製品の開発、新市場の開拓を行っています。

また、タイにおいて、2009年3月に早期退職制度を実施し、人員の削減を行いました。

## 所在地別業績

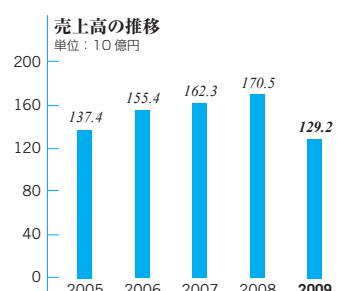
### 日本

日本地域は、一部のモーター及び電子デバイス関連を除き総じて低迷し、売上高 59,154 百万円と前会計年度に比べ 16,224 百万円(△ 21.5%) の減収となり、営業利益も 1,261 百万円と 7,835 百万円(△ 86.1%) の減益となりました。



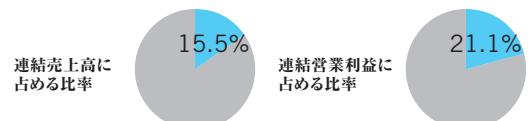
### アジア（日本を除く）

アジア地域は中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域であります。売上は、円高の影響、顧客の在庫調整による HDD 用スピンドルモーター及びピボットアッセンブリーの販売減少等により、計測機器を除き総じて低調に推移しました。この結果、売上高は 129,243 百万円と前会計年度に比べ 41,231 百万円(△ 24.2%) の減収となり、営業利益は 8,248 百万円と 7,325 百万円(△ 47.0%) の減益となりました。



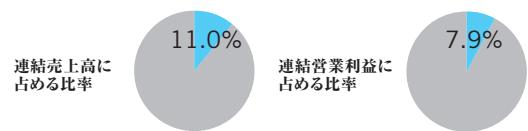
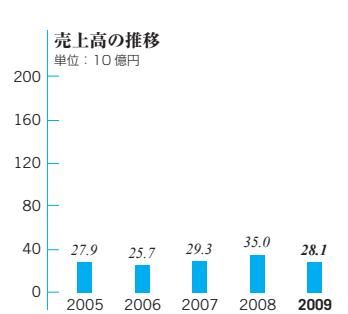
### 北米

北米地域は、米国生産の航空機関連業界等向けのボールベアリング及びロッドエンドベアリングが、受注・販売共に比較的堅調に推移ましたが、円高の影響で前会計年度に比べ売上が減少しました。また、高付加価値品に特化を進めているキーボードの売上も市場環境の悪化に伴い減少しました。この結果、売上高は 39,687 百万円と前会計年度に比べ 13,898 百万円(△ 25.9%) の減収となり、営業利益も 2,833 百万円と 1,643 百万円(△ 36.7%) の減益となりました。



### 欧州

欧州地域は、景気後退基調の中で、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が比較的堅調に推移しましたが、円高の影響により売上が減少しました。この結果、売上高は 28,079 百万円と前会計年度に比べ 6,915 百万円(△ 19.8%) の減収となり、営業利益も 1,064 百万円と 553 百万円(△ 34.2%) の減益となりました。



(注) 売上高：外部顧客に対する売上高